

氏名	石 濱 真 治
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 217 号
学位授与の日付	昭和42年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	ウイルス性腫瘍の発育鶏卵内培養に関する研究 第1編 マウス白血病並びに乳癌組織の発育鶏卵内培養 第2編 マウス白血病並びに乳癌より得られたウイルス材料 の発育鶏卵内培養
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 小 川 勝 士 教授 小 坂 淳 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

C58系マウス骨髓性白血病，淋巴性白血病並びにC3H系マウス乳癌組織及びそれから得られたウイルス材料を発育鶏卵を用いてその漿尿膜腔内並びに卵黄囊内にてそれぞれ培養を行い，移植腫瘍の発育状態並びに孵化鶏胎児に及ぼす影響を観察した。

第1編：漿尿膜上移植 骨髓性白血病脾並びに乳癌組織移植では明らかに移植腫瘍の増大を認め，組織学的にも周囲膜え各種細胞の滲潤を認めた。淋巴性白血病脾移植では腫瘍の増大及び漿尿膜の変化は軽度であった。尿膜腔内移植 内眼的，組織学的に鶏胎児に変化を認めなかった。卵黄囊内移植 骨髓性白血病脾，乳癌組織では100%，淋巴性白血病脾では50%の鶏胎児死亡率を示した。

第2編：漿尿膜上接種 Fluorocarbon 処理法により得られた乳癌ウイルス材料接種では漿尿膜は多彩な変化を示し他の材料ではいずれの処理法でも殆んど変化をみななかった。尿膜腔内接種 いずれも著変をみななかった。卵黄囊内接種いずれも100%の鶏胎児死亡がみられたが，Fluorocarbon 処理法によるウイルス材料接種が濾過管通過法によるそれに比し早期に死亡を認めた。

(結論) 骨髓性白血病脾並びに乳癌組織及びそれらにより得られたウイルス材料接種では発育鶏卵漿尿膜並びに鶏胎児に著しい変化をみたが淋巴性白血病のそれでは比較的变化が少なかった。この事はウイルスの種類或いはその活性の相異に基くものと考える。

論文審査の結果の要旨

本研究は、マウス白血病並びにマウス乳癌より得られたウイルス材料を発育鶏卵内で培養することにより、腫瘍のウイルス説を実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかったウイルス説を証明するのに重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。